

軍務局

大正九年六月十七日

發信者 茨城縣知事

受信者 次官

電報譯

尼港々外ニ於テ海軍ノ掃海隊敵ノ敷設水雷
ニ罹リ大損害アリタル風説アリ若事實トセハ
損害ノ模様至急御知ラセヲ乞フ

(3)

海軍

竹中

(小張納)

0062

軍務局

供覧



芝城町知事宛

次官

六月十七日 發電

海軍

軍務局受

9. 6. 17

返六月一日海軍兵隊隊里龍江錦ハレ

作業者機電爆発ノ後数名ノ傷者アリシモ船隊体
勢大損傷ナシ

イワレモ
ナシ

0063

又

軍務局

供覽



協字去危秘法

新書

陸有可銘

算し之を厚飲之達りし分如く土庫力
調製せし心と云

唐懷子仲若表集古字大却却

押次郎 老玄匠 方庵 煇七三郎

分府、考素元、世之

第一課
第二課

別冊官房保存

受領局務軍
9. 6. 21

0064

供覽



極秘

軍令部

供覽
64

軍務局長

第一課長

民港事件、東相、たき冊、同、

大正九年七月十六日午後(軍)軍務課長、松田より來訪、小官ニ
別冊ヲ手渡シ、曰ク

別冊ニ不取收、臣(軍名)軍務課ニ調査、記者大ニ中ニ世軍
國情ヲ明クシ、年(一)定國情見、ヒ、
以、大ニ却、外ニ、交、手、た、者、非、ス

中、皇、田、香、細、子、承、セリ、世、軍、ニ、テ、(一)軍、令、部、ニ、テ、起、事、者、有、ア、ノ
大、外、情、事、件、ニ、對、シ、交、手、者、ハ、外、又、モ、考、テ、有、ル、コト、ハ、明、ク、シ、テ、

世、軍、ニ、テ、リ、事、件、ノ、結、果、ヲ、交、手、者、ハ、大、外、情、事、件、ノ、有、効、者、ト、シ、
松、田、少、佐、定、己、ニ、レ、決、意、シ、テ、大、外、情、事、件、ノ、有、効、者、ト、シ、

第三班長、田耕、第五課長



海、六、二、軍

海、六、二、軍

0065 9-6-19-

モノトシテ發見スルモノトモトモニ

吾等ノ内ニ近接シテ命令ヲ受ルモノ得テ却テ行キ得ル中
 十ニ年ノ前ニ知レ上ルモノトモトモニ得テ一ニシヨシ

加害者トモトモニ得テ一ニシヨシ

一陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

ニ陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

ニ陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

ニ陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

ニ陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

ニ陸軍ニシテ軍務ヲ長ク托シテ調ヒテ事ヲ成スルナリトモ

(終)

(明治印刷)

0066

供覽



軍務局

海軍次官植内重次郎殿

第一課
第二課



譯文送付ノ件

署ニ足港ニ派遣セラレタル在園大使館書記官
ヨリ同港市街各所ニ貼付アリシ朝鮮語及英語
標識書送付致来リニ付考査者右譯文
及送付ナリヤ

以三機參立送付ニ九五號
方正九月二十一日

知府官植東正



朝鮮語及英語



0067

(譯文)

(支那語ノ事)

同志ヨ

男女労働者ト軍人

銅ノ如キ減力ヲ社會革命モ、露國自治議會、民
主共和國ニ敵ゲ全世界ノ惡魔ニ打勝タレノヨ
露國労働者ノ血族ハ仇敵ノ野害ニ因リテ遠近
ノ連絡ヲ阻隔セラレ我民主共和國ノ維新生活ハ完
成決セラル、無シ

勤勞光榮ノ路ヲ踐行シ且一心ノ誠、銅鑼ノ如キ性欲
ヲ以テシ經濟上ノ破壊ヲ免シ労働農民社會革命
ノ戰利品(即自由)ヲ保存セシメ得ハ則チ子ヲ遺シ
最終一点ノ血痕ニ至ル迄モ奮進シ退ク勿シ。之ニ

0068

則仇敵ニ對抗スルモノト謂フベシ

本道會決定

陽曆五月十五日ハ即黑龍江沿岸緊急守備ノ日

也

陽曆五月十五日ハ尼加來港區域内ノモノハ男女老幼

ニ備無ク本道會事務所前庭(一)ニ集合シ各其

ノ責ヲ負ヒ(食料品供給部事務員及器械廠長

ニ船隻修理人等官廳者番ナラ陰ク)全部來集服

役ニ以テ社會革命ノ團合心ヲシテ世界ニ公傳セシ

スヨ

沙河陣別

道會理事會告白

道會事務所書記

ウエルチヤ

(印)

0069

別紙

譯文

二條向
文也

(朝鮮語ノ分)

大韓同朋諸君ニ謹告ス

敬白 本軍隊ノ軍人ハ五百餘名ニシテ其衣服履
物等ハ一時露西亞軍勢部ニ傍リタルを同部ニ托
テモ隙テノ蓄積アルナク各種物品ヲ新クニ準備ス
ル爲メ甚ク多忙ナルヲ以テ吾等ノ精進ニ應ズルコト
能ハサルニヨリ吾等ノ獨立軍人等ハ非常ナル窮乏
ノ内ニアリ若干ノ被服履物ハ露西亞軍勢部ヨリ
得タリト馬米ヲ蓄積ナク履物ヲ穿タサル者其大
半ナリ、今ヤ我々諸君ノ銃劍並ニ近接スルノ時ニ當
リ何ゾ衣服等不具ノ故ヲ以テ安閑監視スルヲ得ン
ヤ何レノ日何レノ時銃ヲ執リテ進出スルニ至ルヤ知
ベカラズ願ハクハ吾カ軍隊ヲ愛スル諸君同胞ニ恩

0070

東ヲ以テ衣服廢物ノ殘餘ヲ提供シ我軍人ヲシテ着
衣^{不潔}後足ノ悲境ヨリ脱セシムル様至急援助アラム
コトヲ望ム

12/19 千九百二十年

霞領尼市

大韓獨立軍參謀部

部長

朴正熙

書記

(鄭文獻大參照)

(印)

0071

男女労働者並ニ軍人等ヨ

銅鉄ノ如キ丹誠ト忠誠ノ力ヲ持テタル(電)自治ノ

民主共和國ハ全世界労働者ノ怨望ヲ打テ勝テ

リ

(我)労働者ノ血族タル吾等ハ怨望ノ妨害ニ因リ

一時各地トノ聯絡ヲ絶シタルニ吾等ハ民主共和

國ノ神聖ナル生活ヲ完成スル為メ全力ヲ盡シ完

成スル道途ヲ進行スベシ

尚ホ熱烈ナル精力ト堅キ赤誠トヲ以テ經濟上ノ

破滅ヲ免カレ労働者自社會革命ノ新利品(自

由)ヲ保存スル為メ吾等子孫ノ最後血液ノ一滴ニ

至ル迄絶大ノ努力ヲ以テ彼ノ怨望ヲ打勝メカルベシ

力ヲ入

通達

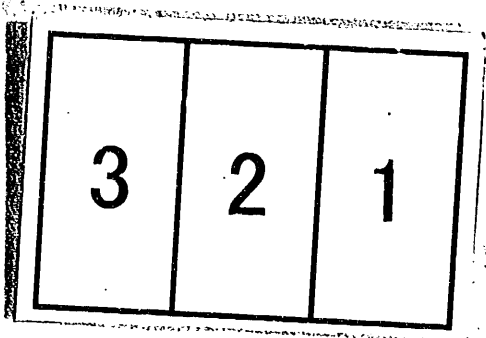
本道會ニ於テ陽曆五月十五日ヲ以テ黒新松治片際
急寄備ノ目ト是ム

陽曆五月十五日ニ於テヨリヨリスルノ區域内ニ在
ル者ハ男女老少ノ別ナク本道會事務所前ニ會合
シ各自其ノ責任ヲ分担シ食料品公估即チ事務好
買機材廠事務好以テ各々修理工事ニ各官廳ノ
當番官以外ノ者全部ト奉臨ノ上社倉庫等ノ國
庫心ヲ全世界ニ公布セシム

本道會理事會謹白

本道事務所以舊地ヲシテトアルルニテ商店隣

分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 版 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

来る十九日青地
左郷軍人お寄
リニ港に於て
惨殺せられたる邦
人追悼会執り
行演説会
催の筈、孰ては
旧恨に於ける邦
人の生活状態
系に被害ある
程に演説を

0077 0076 0075

同様に於ける邦
人の生活状態
系に被害を蒙る
往來に滞りを生
考材料とす
る世にもうなむ
市役所より
今及市役所に
又いせ
六月十日
中井銀次郎
中井銀次郎

尹氏
市中

往來に諸演を
考材料とふ
る世きもうはな
る但ひら文
今及市依
又いせ
六月十日
中井
中井
中井

元樺太州知事勳二等タリゴリエフノ覺書
北辰會
持

供覽

元樺太州知事勳二等タリゴリエフノ覺書

幾ニ樺太ニ知事ノ職ヲ奉ゼシ拙者ハ最近ニコラエフスク及ビ樺太ニ於テ
過激主義者ガ敢行セシ非人道的行爲及ビ掠奪ニ關スル報導ヲ讀ム毎ニ憤
慨ノ念ニ堪エザルモノニ御座候

此ノ如キハ絶滅セザルヲ得ズ候

過激主義者ガ政權ヲ執ル間ハ良民タルモノ決シテ生活ヲ營ムヲ得ズ候商
業ハ全ク終熄スベク總テノ文明的施設ハ停止セシメラレサルヲ得ズ候

拙者ハ從來ノ關係上先ツ樺太ヲ此窮狀ヨリ救助致度存候由來樺太ニハ住
民少ク、異人種（ギリヤク種、ヲロチエン種、ツングース種）ヲ合シテ
僅ニ八千人ニ過ギズ候

軍務局

樺太ノ住民ハ平和勸告シテ之ヲ亂ルモノハ他地方ヨリ飛入シ浮浪ノ徒ニ

有之候

第一課

日本政府ニシテ樺太ニ於ケル過激派ノ爲メ歴山府ニ對シ出兵ノ舉アルニ

於テハ拙者ハ喜ンデ之ニ從ヒ浮浪ノ徒ヲ放チ由リテ以テノ善良ヲ集メテ

日本政府保護ノ下ニ樺太獨立施政ノ基ヲ開クベク候

日本政府ノ保護ヲ得バ樺太ニ於ル文物ヲ正當ナル開發ノ途ニ導クヲ得ベ

9.6.18

軍務局受

9.6.18

0078

ク商工業、農業ハ随テ順況ニ赴キ教育ハ其緒ニ就クヲ得ベク存候
以上ハ卑見ノ一班ニシテ樺太ニ於ル行政機關ノ組織等ニ關スル詳細ハ右
ノ意見ノ採用サルル場合拙者ハ日本政府ガ任命サルル委員諸氏ト共ニ喜
ンデ之ガ講究ニ力ムベク候

而シテ露國ニ於テ正當ナル政府ノ組織サルル時機ニ到達セバ樺太ノ處分
ニ就キ容易ニ双方共ニ満足ナル解決ヲ得ベク候

如上ノ卑見ヲニコラエフスクニ適用セントスルハ少シク困難ナルベシ但
シ日本ノ兵力多キヲ増サバ之レ亦タ適當ニ効力ヲ示スベシ

デ、グリゴリエフ

0079



工務局

極東露領漁業權管理ニ關スル請願

第一課
第二課

先以テ、
上ノ
後、
上ノ
研究
海下
研究
研究

軍務局 登
9. 6. 22

0080

發第九七號

大正九年六月二十日

露領水産組合

組長 小嶋源



海軍大臣加藤友三郎殿

極東露領漁業權管理ニ關スル請願

極東露領ニ於ケル本邦人漁業權ハ日露戰役ニ依リ獲得シタル唯一ノ利權ニ有之爾來該方面へ出漁スル本邦

露領水産組合

0081

漁業者比年多キヲ加ヘ最近本邦人ノ租借セル漁區
 三百十餘箇所其一年漁獲高約五十萬石此金額
 三千萬圓ノ巨額ニ達シ前途益々有望ノ事業ニ有之候
 然ルニ過般露國ノ政變后極東露領沿岸ニ於ケル秩
 序亦是ニ伴ヒテ甚シク頽廢シ沿岸住民ノ我漁業ヲ妨
 害セントスルノ徵尠ナカラザルモノ有之候ニ付一昨年以來毎
 漁業期ニ際シテハ特ニ軍艦派遣ヲ請願致シ是カ擁護
 ノ下ニ幸ニ辛フシテ無事營業ヲ繼續致候モ現下情勢
 ニ於テハ折角獲得シタル漁業權ノ行使モ常ニ多大不安
 ノ念ヲ禁ズル能ハザル實況ニ有之候是カ故ニ本邦漁業
 者ハ勿論露國漁業者モ亦等シク一日モ速カニ秩序ノ恢

復營業ノ安固ヲ切望シテ止マサル儀ニ有之候得共露國
ノ政情ニ鑑ミレバ近キ將來ニ於テハ此期ニ達スルコト到底不可
能ノ儀ト被存誠ニ掛念ニ不堪次第ニ候殊ニ今回尼港ニ
於ケル本邦人虐殺事件ハ益々露國ノ無秩序及一部露
人ノ殘忍ナル性格ヲ暴露シタル實例ニシテ該地ト遠カラ
ザル距離ニ在ル露領沿岸ノ魚援孤立ノ各漁場ニ於テハ
地理上彼等ノ侵入シ易キヲ以テ實ニ四周脅威ノ内ニ在
ルノ念ニ堪ヘズ候

以上ノ通り本邦漁業者が多大ノ不安ノ裡ニ在ル苦衷
御賢察ノ上尼港事件賠償問題解決スル迄其擔
保トシテ極東露領ノ漁業權ヲ我國ニ於テ管理セラル

候ハ、本邦漁業者ノ幸福之ニ過グルモノアラザルハ勿論一
面該慘事ニ對スル我國民ノ義憤ヲ晴ラスノ一端トモ相
成可申ト被存候間頭書ノ通り極東露領漁業ヲ我
國ニ於テ管理相成ル様特ニ御詮議相仰度此段及
請願候也

敬具

起案郵紙

大正九年六月廿二日起案

起案者
捺印

六月廿二日發付

發付掛
捺印

發付後起
案者捺印

(主) 軍務局長

第一課長

局長

副官

次官

參事官

軍令部

第一班
第三班

大正九年六月二十二日

外務次官宛

次官

尾港方面入港船舶三隻の件

尾港救済、調査、保護、等、の件、六月二十一日付官房機密第八八六

官房機密第八八六

局、部	官房	軍務	人事	經理	法務	技本	造兵	教育	陸建	水路	軍倉
受月日	六月廿二										六、廿三
發月日											

0085

號ヲ以テ回答致し是候處今般第三般域を保長ヨリ別紙ノ
通存件ノ旨ニ通報有之候之付、本件係テ明確ニ浦潮所在
ノ旨重要ニ通報才御取計ヲ得度
在照合唐ス

追而

一、浦潮ヨリ尾港救援恤潤を固出發ニ決定し場合之カ由
報ヲ得ル

二、別紙通報中、柳森等ニ付テモ尾港方面入港航
船ニ對スル度、慶長ノ港軍ト協同上ノ通報スル件有之候

(別紙)
母本添)

(次)



五四六

大正

九

年 六月 十八

日 午前七時五十五分

東京海軍局

第一課
第二課
第三課
第四課
第五課
第六課
第七課
第八課
第九課
第十課
第十一課
第十二課
第十三課
第十四課
第十五課
第十六課
第十七課
第十八課
第十九課
第二十課
第二十一課
第二十二課
第二十三課
第二十四課
第二十五課
第二十六課
第二十七課
第二十八課
第二十九課
第三十課
第三十一課
第三十二課
第三十三課
第三十四課
第三十五課
第三十六課
第三十七課
第三十八課
第三十九課
第四十課
第四十一課
第四十二課
第四十三課
第四十四課
第四十五課
第四十六課
第四十七課
第四十八課
第四十九課
第五十課
第五十一課
第五十二課
第五十三課
第五十四課
第五十五課
第五十六課
第五十七課
第五十八課
第五十九課
第六十課
第六十一課
第六十二課
第六十三課
第六十四課
第六十五課
第六十六課
第六十七課
第六十八課
第六十九課
第七十課
第七十一課
第七十二課
第七十三課
第七十四課
第七十五課
第七十六課
第七十七課
第七十八課
第七十九課
第八十課
第八十一課
第八十二課
第八十三課
第八十四課
第八十五課
第八十六課
第八十七課
第八十八課
第八十九課
第九十課
第九十一課
第九十二課
第九十三課
第九十四課
第九十五課
第九十六課
第九十七課
第九十八課
第九十九課
第一百課

信者 次官

電報譯

第三艦隊機密第三百二十五號

尼港方面入港船舶ニ付テハ處置ニ関シテハ

是ニ當テ今回外務陸軍側ト協議ノ結果先

通ニシテ決定シタリ

一カス土里斯湾以北ノ間宮海峡ニ於ケル一般

船舶ノ航行ハ六月二十日以後ハシヤタル角迄

ハ差支無キ同地以北ノ航行ハ差支無キ時斯

ハ差支無キ同地以北ノ航行ハ差支無キ時斯

海軍

軍務局受

0087

ニ、更ニ通知ス、但、ゴジャオレ、南以北、小舟航行
 七月上旬以後、差支無キ見込
 二、当方面ニ於ケル船舶、航行、人負上陸、物資
 揚陸ニ関シテ、ハ、右ノ条件、策知ノ上、トル
 要ス
 一、水陸路ハ、觀、意、請、掃、中、十、七、日、來、共、其
 安全ニ付テ、係、証、シ、難、シ
 四、沿、激、派、残、徒、当、各、地、ニ、出、没、ス、ル、ヲ、以、テ、当
 地、陸、軍、官、憲、ニ、於、テ、其、通、疑、者、及、武、兵、軍
 需、ノ、取、締、ヲ、行、フ、故、渡、來、者、ハ、内、地、若、ク、ハ、
 外、國、ニ、アル、帝、國、文、武、官、憲、ノ、身、元、證、明、書
 ヲ、携、帶、ス、ル、コ、ト、
 ハ、糧、食、及、宿、舎、ハ、当、方、ニ、於、テ、絶、對、ニ、世、話、シ

海

軍

難シ、市街ハ沼激派ノ為殆ト全部破
壊サレタリ

二、尾港ニ於テマロパガント、其他治安ヲ害
セサル事

ホ、帝國政府ノ承認セサル露國地方政府
代表者ニ對シテハ当地ニ於テ、單ニ必要
ニ應ジ事實上ノ市ノ代理ト爲スニ留キス

六月十七日

電光

次長 次長

海

軍

0089

大正九年六月三十日

長



外務省

尼港事件ニ關スル第三回公表

8. 6. 20

0090

尼港事件ニ關スル第三回公表

「ニコライウス」市ハ黑龍江ノ河口約三十海里ノ上流ニアリ「サハレン」州ノ首府ニシテ人口約一萬五千ナ有ス明治二十五年以降本邦人ノ同地ニ往來スルモノ漸次増加シ漁業、輸出入貿易業、大工職、湯屋業、和洋服裁縫業、飲食店業等ニ從事シ近年同地ニ在留スル本邦人數四百名内外ヲ算スルニ至レリ客年晩秋「コルナヤツ」政府動搖ヲ來シ十一月十五日「オムスク」ヲ撤退セサルヘカラサルニ至リシ以來西比利亞ノ政情漸次變轉シ本年一月上旬同政府遂ニ崩壞セリ同月下旬ヨリ二月上旬ニ互リ沿、黑兩州各地ニ於テ政變相踵キ過激派ノ勢力又尼港方面一帯ニ波及シ情況險惡トナリタルニヨリ同地駐劄石田領事ハ駐屯軍守備隊ト協力シ我居留民自衛團ノ組織ニ盡力スル等銳意在留民保護ノ事ニ當リタルカ一月二十六日同領事ヨリ陸戰隊ノ派遣ヲ電請シ來リ之ト前後シテ海軍軍令部長ニ對シ尼港駐在海軍武官三宅少佐ヨ

0091

リモ亦同様ノ申請アリタリ當時浦潮及ヒ哈府方面ノ情勢ハ同方面ヨリ増援
隊ノ分遣ヲ許ササルモノアリシヲ以テ本邦ヨリ救援隊ヲ派遣スルコトニ決
定シ該部隊ハ小樽ニ於テ不取敢乗船ヲ開始シタルモ韃靼海峽方面ノ偵察ヲ
行ヒ更ニ軍事上ノ攻究ヲ遂ケタル結果該計畫ヲ延期スルノ已ムナキニ至リ
尼港救援隊ハ一時旭川ニ待命スルコトナレリ

我手ニ由ル尼港ト外部トノ通信連絡ハ二月上旬ヨリ以降全ク斷絶シテ石田
領事ト通信ノ途ナク直接同地ノ情況ヲ知ル能ハサリシヲ以テ外務省ハ他
ノ在西北利亞領事官等ニ訓令シテ同地ノ情況ヲ探知セシメムト努メタル處
本年三月十七日ニ至リ在「ハバロフスク」杉野領事ヨリ

「ニコライツスクニ」於テ目下過激派軍ト日本軍トノ間ニ猛烈ナル市街戰行
ハレツツアルヲ以テ戰闘中止ノ措置ヲ取り度旨當地「ソヴイエト」側ヨリ
申出アリタルニ付三月十五日日露兩軍代表者當領事館ニ會合シ協議ノ結
果尼港日露兩軍ニ宛テ無益ノ戰闘ヲ中止スヘキ旨電報シタリ尙ホ事件調

1008

0092

査ノ爲メ日露雙方ヨリ同地ニ委員ヲ急派セムトシタルモ右ニ關シ過激派
軍ヨリ派遣員ノ生命竝ニ通信ノ保障ヲ爲ス能ハスト申出テタルニ付之レ
ヲ中止シタリ

トノ電報ニ接シタリ尋テ同月二十四日再ヒ杉野領事及ヒ在浦潮菊池總領事
ヨリ接受セル電報ニ據レハ尼港事變ニ於テ多數ノ犠牲者ヲ出シ石田領事
モ亦其ノ中ニ在ルモノノ如ク右ニ關シ同領事官等ハ孰レモ露國官憲ニ交渉
シテ事實ノ真相ヲ究ハムトシタルモ結局要領ヲ得サリシトノ事ニシテ當
時陸海軍當局ニ在リテモ亦略ホ同様ノ情報ヲ接受セルニヨリ二十五日在「ペ
テロバフロフスク」鹽田領事館事務代理ニ對シ何等カノ方法ニ依リ事件ノ眞
相ヲ探知シ報告スヘキ旨ヲ訓電シ置ケルニ之ト行違ニ同月十八日鹽田發電
報二十九日ニ至リ外務省ニ到着シタリ之ニ據レハ尼港駐屯日本軍ト過激派
軍トノ間ニ二晝夜ニ亙ル激戰アリ其ノ結果駐屯軍隊及ヒ在留民合計約七百
名殆ント全部慘殺セラレ司令部、領事館其ノ他邦人家屋ハ全部焼拂ハレタル

旨ノ情報ヲ得タリトノ事ナリ

四

事態頗ル重大ナリト認メ在西比利亞領事官等ニ命シテ引續キ事實ノ真相ヲ探ルニ努メシメタルニ同官等ヨリノ回電ハ何レモ前記鹽田ノ電報ヲ裏書スルモノナリシト雖其ノ根據皆露人又ハ支那人側ヨリ出テタル斷片的報道ナルヲ以テ在浦潮菊池總領事及ヒ在ハバロフスク杉野領事ニ對シ此ノ際尼港ヘ特使ヲ急派シ實地調査ヲ遂クヘキ旨訓令シタリ然ルニ菊池ヨリハ四月初旬ニ於ケル日露軍衝突ノ結果烏蘇里鐵道破壞セラレ當分開通ノ見込ナク從テ同地ヨリ特使ノ派遣不可能ナル趣及ヒ杉野ヨリハ黑龍江沿岸ノ交通既ニ杜絶シ道路ノ通行困難ナルノミナラス事變後過激派軍ノ殘兵附近ニ横行セルカ爲メ如何ニ多額ノ報酬ヲ提供スルモ之ニ應スルモノナキ趣回電アリタリ

外務省ハ尙ホ絶ヘス在浦潮及ヒ同方面駐在領事官ヲ督勵シテ露國官憲トノ交渉ヲ繼續セシメ尼港在留者ノ安全ノ保持ト信據スヘキ情報ノ蒐集トニ付

0094

努力セシメタルモ西比利亞ノ政情及ヒ尼港ト外部トノ交通杜絶ノ爲メ其ノ
目的ヲ達スル能ハス四月三日在浦潮政務部ヨリ「ウイレシスキー」ハ勞農政
府極東外交全權ノ肩書ヲ以テ政務部ニ書翰ヲ寄セ尼港事件ニ對シ遺憾ノ意
ヲ表シ來リタル趣電報アリタルモ其ノ外彼レニ於テ何等ノ要領ヲモ得ス其
ノ他ノ露人側ニ在リテモ亦我出先軍憲及ヒ領事官等ノ交渉ニ對シテ均シク
要領ヲ得ス又何等ノ明言ヲモ與ヘス然ルニ當時引續キ各方面ヨリ接到セル
情報ハ何レモ尼港ノ事態甚タ重大ナルヲ語レリ
事情右ノ如クナルヲ以テ外務省ニ於テハ現場ニ就キ事件ノ真相ヲ查明シ必
要ナル措置ヲ講セシムル爲メ直接本省ヨリ人ヲ尼港ニ急派セムト計劃セシ
モ當時諸般ノ狀況ハ容易ニ之ヲ遂行ヲ許サス百方其ノ手段ニ就キ腐心攻究
中恰カモ同方面ノ解氷ト共ニ進發セシムル目的ヲ以テ曩ニ待命セシメタル
尼港派遣隊ヲ出動セシムルコトトナリ之ヲ掩護ノ爲メ軍艦三笠、見島同方面
ニ向フコトトナリタルニ依リ花岡大使館書記官ヲ軍艦三笠ニ便乗出發セシ

五

0095

メタリ而シテ同官ハ六月六日尼港ニ到着シ爾來極力事件ノ調査ニ任セリ

尼港ニ於ケル帝國領事館ニ保存セラレタル同地在留帝國臣民ノ在留登錄簿
ハ同領事館ト共ニ烏有ニ歸シ而シテ外務本省ニ保存セルモノハ單ニ毎年六
月現在ノ職業及ヒ男女別人口ノ報告ニ過キサルヲ以テ石田領事及ヒ其ノ家
族ヲ除クノ外陸海軍人以外ノ殉難者ノ氏名等容易ニ判明セス依テ先般來或
ハ花岡書記官ニ電訓シ或ハ關係各府縣知事ニ知照シ其ノ他諸種ノ方法ニヨ
リテ之カ調査ニ努メ居レリ而シテ己ニ本月十六日ノ公表書ニ記述セルカ如
ク大正八年六月現在調査ニ於テ本邦内地人男子一六九名、女子一八四名計
三百五十三名ナリシ事實ヲ以テ之ヲ推スニ今回ノ難ニ殉セシモノ約三百五
十名ナリト見テ大過ナカルヘシ

花岡大使館書記官其ノ他ヨリ隨時接受セル報告ニ基キ六月十六日不取敢公
表スル所アリタルカ其ノ後ニ於ケル同官等ヨリノ報告ヲ綜合スルニ左ノ如
シ

0096

一、尼港過激派ハ帝國軍隊ノ樺太及ヒ「デ」港方面活動ト共ニ漸次其ノ準備
ヲナシ殊ニ海上水道ニ重キヲ置キ市民ヲ鞭チ石ヲ擲ハシメ石船十數隻
ヲ用意シ解氷ト共ニ之ヲ航路ニ沈メ機雷ヲ沈置シ爲メニ我津野少將本
隊ハ今尙ホ全部上陸スルヲ得サル狀況ナルカ海軍「アムール」砲艦隊及
ヒ「デ」港ヨリ進出セル多門隊ハ迅速ナル前進ヲ爲シ五月二十四日「マリ
ンスク」ニ出テタルヲ以テ過激派ハ愈々最後ノ慘虐ヲ逞フシ五月二十四
日夜半ヨリ二十七日ニ亙リ我生存者百二十餘名ヲ殺戮シ市民ニシテ自
己ニ便ナラサルモノモ亦慘殺シ市街ニ放火セル爲メ六月三日多門隊ノ
尼港ニ到達シタル時ハ已ニ住民殆ント全部避難シ全市火焰ニ包マレト
リヤビヤン」外數名ノ過激派幹部及ヒ其ノ部下等ハ「アムグン」上流ニ向
ケ遁走シ居タリ尼港在留帝國臣民ハ幸ニ避難シ得タル十數名ノ子女ヲ
除キ全滅セリ避難者ノ姓名左ノ如シ

中 村 ミ ツ 平 石 ト ミ 末 松 ト ヌ

七

0097

宗 キク

上田 ツゲノ

池尻 カヨ

八

佐藤 サキ

佐藤 ツユ(小兒) 佐藤 奎之助(小兒)

長島 イキ

桑原 イマ 長濱 ミセ

重浦 トミエ

友永 キソ 川島 セキノ

島谷 タネ

此ノ外六月二十日頃尼港上流百六十露里ノ地點ニ於テ我陸海軍ノ爲メ救出サレタル山本 糸三郎夫婦アリ、又「ケルビ」地方ニ連レ行カレタル本邦商人二名アル由ナルモ消息不明ナリ

二、多門隊到着後猶ホ數日ニ亙リ尼港ノ火焰容易ニ熄マス殆ント同市灰燼ニ歸シ漸クニシテ鎮火セリ

過激派軍ノ殘黨ハ猶ホ「マリンスク」其ノ他ノ地點ニ出沒シテ土民ヲ脅カシ居レトモ尼港附近漸次鎮靜スルニ從ヒ避難民ハ昨今日々白旗ヲ掲ケタル小舟ニ依リ歸還シツ、アリ然ルニ彼等ハ唯燒跡ヲ眺メ住スルニ

0098

家ナク衣食ニ窮シ施スノ術ヲ知ラス而カモ其ノ多數ハ過激派ノ爲メニ
親子夫妻ヲ慘殺セラレタルモノナリ避難者ノ總數約三千ニ達ストノ事
ニシテ今後之ニ對スル措置ニ就キ相當攻究ヲ要スヘシ現ニ島田元太郎
ノ如キモ一鐵工場ヲ除クノ外其ノ所有建物全部焼失ノ厄ニ遭ヘル爲メ
身ヲ寄セムトスル多數舊知ノ處分ニ窮セル狀況ナリ之ヲ要スルニ現下
ノ尼港ハ露人自主ノ政治團體ヲ組織スルコト當分望ナク秩序ノ維持ヨ
リシテ住民ノ給養ニ至ル迄我手ヲ借ラサルヘカラサルノ狀態ニ在リ

三、支那領事及ヒ露人側ノ言竝ニ新聞其ノ他ヲ綜合スルニ尼港日本守備隊
ハ石田領事其ノ他ノ斡旋ニ依リ二月二十四日過激派トノ間ニ戦闘ヲ
中止シ二十八日ニ至リ協定成立シ白衛隊ニ於テ武裝ヲ解除シ過激派軍
ハ之レヲ虐殺セサルコト、ナシタルニ白衛隊ノ武裝解除後過激派軍ハ
直ニ約ニ違ヒテ慘殺ヲ恣ニシ且ツ支那人及ヒ朝鮮人ヲ集メテ部隊ヲ
編成シ其ノ勢力ヲ張レルノミナラス過激派軍ハ革命記念日ヲ期シ我軍

ヲ鑿殺スヘシトノ風評專ラナル一面三月十一日午後ニ至リ我軍隊ニ武裝解除ヲ求メ然モ其ノ期限ヲ翌十二日正午トナシタルヲ以テ我海陸守備隊ハ戰鬪ノ避クヘカラサルヲ察シ茲ニ自衛上意ヲ決シテ過激派本部ヲ攻撃セシモ成功セス退テ海軍部隊ハ領事館ニ立籠リ陸軍守備隊ハ主トシテ中隊兵舎ニ入りタルカ領事館ハ同十二日過激派軍ノ砲撃ヲ蒙リ石田領事及ヒ其ノ家族竝ニ三宅海軍少佐以下難ニ殉セリ而シテ突出セル少數殘餘ノ兵ハ悉ク途上ニ倒レタルモノノ如ク又陸軍守備隊ハ殘存部隊ヲ以テ其ノ後モ猶ホ兵舎ニ據リ五晝夜ニ互リテ奮戦シ殆ント負傷セサルモノナキニ至レリ三月十七日過激派軍々使來リ在「ハバロフス」司令官ノ戰鬪中止勸告ヲ傳フルヤ評議ノ上三月十八日戰鬪ヲ停止シタルカ過激派軍ノ爲メ武器ヲ奪取セラレタリ爾來百二十餘名ハ監獄ニ收容セラレ時々勞役ニ苦使セラレ終ニ五月二十四日夜半ヨリ同二十七日ニ互リ悉ク殺戮セラレタリ

0100

四、事態急迫ノ極ニ達シタル時石田領事ハ御眞影ヲ敵手ニ委センコトヲ慮
リ自ラ謹ミテ之ヲ火中ニ奉リ次テ主要書類ノ處分ヲ行ヘルモノノ如シ
露人側ニハ石田領事其ノ他ハ最後ニ萬歳ヲ唱ヘ火ニ投シタリ又同官ハ
「バルコン」ニ出テ過激派ノ徒ニ向ヒ「トバリツシ」汝等ハ此ノ儘ニ濟ムモ
ノニアラサルヲ知レ」ト云ヘリトノ事ヲ傳フルモノアリ露人技師「ウシ
ヤコフ」ハ當時領事館ニ在リシニ石田領事ハ領事館ハ長クモ十四日迄守
備シ得ルニ過キサルヘシトテ二月十一日同技師一家ヲ領事館以外ニ避
難セシメシトノ事ニテ同領事ハ其ノ最後ヲ覺悟シ居タルモノノ如シ之
ヲ要スルニ石田領事ハ斯ル非常ノ異變ニ處シ自若トシテ周到ニ意ヲ用
ヒ能ク職責ヲ全フシ一家ヲ舉ゲテ悲壯ナル最後ヲ遂ゲ其ノ職ニ殉シタ
ルモノナリ

0101